

# お客様各位

## 元氣通信

明けまして おめでとーいございます

こんにちは！サーマルタンクの新洋技研工業(株)大辻です。本年も宜しくお願いいたします！

日本語は本当に美しいですね。同じことを言うにしても様々な言葉の表し方があり、実に繊細です。また色を示すにしても、朱赤、朱鷺色、緋色、紅色など雅やかな言葉があります。昔ならった古典なども思い返してみれば、表現力が豊かで情緒溢れていました。このような繊細で美しい言葉がなぜできたのか、そして味覚についても日本人は群を抜いて繊細であると言われていますが、なぜなのでしょうか……。その理由のひとつは日本は四季がはっきりしていたから、と言われています。また折り目節目には、行事があり、こどもからお年寄りまでが集い、和やかな時を過ごすことができました。

残念ながら現代はその良き風習が徐々に姿を消し、人と人の心の交流、情緒のこもった会話が交わされなくなってきました。心の寂しさから端を発する事件が大変多く起きています。「続 三丁目の夕日」がブレイクしたのも「心のビタミン欠乏」からくる、「人とのふれあいの渴望」ともいえるのではないのでしょうか……。

さて、今年の三ヶ月カレンダーの題材は「こどものあそび」シリーズです。

こどもたちが自由に野原を駆け回り、日の暮れるまで遊びまわった。今みたいに何でも揃っていたわけではなく、自分たちで想像を膨らませ、棒切れや板を使って物を作った。その辺にあるものなんでもあそび道具になっていた、懐かしいあの頃を思い出していただき、ほんの少し「こどものころ」の自分に戻る時を作っていたら……と思います。

本年も引き続きご愛顧いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 日本の野鳥シリーズ

カワセミのお家芸

技術営業部 佐藤 弘

本種は一見尾が無い様だが、計測の一例を挙げれば32.5mmの長さがある。そう見えるのは下腹部と尾の段差を覆い空気抵抗を減少させる、尾筒と呼ぶ羽根に尾が隠れているからだ。そんな尾だから舵の効きは悪く、アクロバット飛行はどだい無理ではぼ直線的にしか飛べない。もっとも、本種は停空飛翔から水中にダイブして小魚をくわえ捕る名手ではある。

ベテランH氏の職場は日本海の沖あい4kmに立つ石油探掘ヤグラだから、何気無く彼が言う事に周りはただ驚くばかり。夜間ヤグラは煌々と灯りを点けているから、大群で渡る小鳥類がよく見え、居付いているハヤブサがそれに夜襲を掛ける。食べ応えのない小鳥故か狩りができない荒天に備えてか、その個体は獲物を蓄える、等々。彼はハヤブサの食卓に落ちている羽根を蒐集しているが、不器用な本種が多いと言う。

ある日彼が観察中に、海上低く飛ぶ本種がたちまちハヤブサに急降下攻撃を掛けられた。ハヤブサは既に足を突き出した捕捉態勢。もはやこれ迄と見えた一瞬、カワセミはズボンと海中に突入して攻撃をかわし、あっぱれ第三撃迄のいでヤグラ下部に逃げ込んだと言う。海面を共通項に、大魚対トビウオの攻防と対照的だ。お家芸のダイブが身を助ける事を体得しているその個体は、以後水域では修羅場を訳なく切り抜ける事だろう。

本種には翡翠の字が当てられ水辺の宝石と呼ばれる。優待券が当たりカミさんと上海ツアーに参加した。どの店どの石も全く同じ色調の翡翠がダイヤ(に見えるジルコン?)を散りばめ、日本円で6桁の値段で陳列されている。思わずつぶやいた「工業製品じゃあるまいに、天然自然の産物である石が全部同じ色って事あり得る?」。日頃何でも私にひと言反論する性格良くないカミさんが、無言でうなずいた。はて、そうだ、どこにも翡翠と表示はなかった様な…。すると一体あれは何を売っているのだろう。

さて、本種のクチバシはずい分長く見えるが、先の私の計測例では36mmでしかない。見た目の印象より思いの外短いものだと皆様お感じと推察するが、図星ではなからうか。

と本稿を結んだ後で、11月24日付け朝日新聞「読者の新聞写真」を見てたまげた。本物の尾の下にもう一列長い尾を付け足された本種が、水鏡に写る影までそれらしく画像処理されている他に、飛立ち直後の(影が右方向にズレた)ハクセキレイが合成され、無意味な波紋が描かれている。これは写真ではなく写偽だ。バレなきや何でもやるとばかりに、あらゆる所で偽りがまかり通る世の中に辟易する。中国人が何を考えようが知っちゃいないが、自身を律する「矜持」を死語にしてはならないと思う、この国では。

## 酒蔵さんとの長いおつきあい

第 19 話

取締役会長 大辻 英郎

紅葉の頃、ある会で H21 年 NHK 大河ドラマ「天地人」直江兼続の足跡を知るべく、お隣の山形県米沢市を訪ねた。

兼続は現新潟県南魚沼市六日町の坂戸城の主で、上杉謙信に仕えた家老の一人であり、兜の印「愛」の字が有名。その存在には徳川家康も一目置いていたという。謙信は、武田信玄との川中島の戦いで知られる越後春日山城主。

新潟県は天地人を観光の目玉として取り組み始め、山形県に共同企画を申し入れていた。新潟空港ロビーには 18 畳敷の大きな角枳を飾り県内各地にのぼり旗を立て地域住民の意識を盛り上げた。県民も大いに期待したが、取り組み方に問題があったか経済効果の見通しが甘かったか、その後尻すばみになった。

米沢市に着いてビックリ、すっかり米沢市に上を行かれています。行政と市民が一体となって「天地人と上杉」一色。市民会館は、関連史料が展示されて上杉会館と化していた。

上杉家の菩提寺でも観光客を集めて法要を行い、歴代の城主と奥方の位牌（古色蒼然としているが立派）までお参りできる。米沢に移封され苦しい財政を、上杉鷹山公が立て直した短編ビデオまで見せて、中小企業経営者の心をつかむ企画は心憎い程だった。同行者に感想を訊くと、時期を逃さずしっかりと企画して即実行する事、ものごとの本質を把握する事の重要性を今回の旅行で感じたと言う。

ホテルで出された料理と日本酒の扱いに、誠にもってホテル経営者のまごころを見た。ひやおろしの爛酒、程よく冷やされた吟醸、酒蔵オーナーとホテルのおかみのもてなしの心に感じ入った次第。

次号へつづく



「ザ・キー」 著者：ジョー・ビタリー博士

発行：イースト プレス社

『ザ・シークレット』により「引き寄せの法則」の関連本が続々とベストセラーとなっています。本書はその引き寄せの法則を実行しているのになぜか思うように望みを引き寄せることができない心のメカニズムを解き明かし、「クリア」にすることで成功への道を歩む可能性を示唆しています。

エッセイ

## 2 週間の入院・・・でも元気な病人だった

生産資材主任 島貫 修一

医者：「入院です。今日から 2 週間」

前日の日曜日、目が覚めたら右半身が動かなかった。麻痺は直ぐに治ったが昼過ぎにも数分間の麻痺があったので、月曜朝に病院に駆け込んだ。そして MRI やら色々な検査の結果、脳梗塞の一步手前の脳虚血性発作と診断された。6 年前に西城秀樹が 48 歳で脳梗塞を発症したが同じことが自分の身に起こるとは正に青天の霹靂。そして脳神経外科の個室(3 階なのに 102 号室、テレビ・トイレ付)で点滴のチューブにつながれ、心電図計の送信機を首から下げた生活が始まった。朝 6 時過ぎに起きて 7 時に食堂で朝食。その後 9 時から昼食を挟んで午後 3 時まで点滴して夕方 6 時に夕食。更に夜 7 時から 2 回目の点滴で 9 時に就寝という毎日だが、当の本人には入院しているという深刻さはまったく無く、頭の中にあるのはたっぷりある時間を有効に使うことだけ。点滴中は入院時に持ち込んだ 16 冊の本を読み耽り、夕方になると 9 階展望サロンから新潟市内を見渡して気分転換をする。入浴は月・水・金の午後 3 時からで、8 階の展望風呂で湯ったりとくつろぐ。その際の 8 階 9 階への往復は階段を使い運動不足を防ぐ。食事はおいしく量も適量なので、退院後の食事作りの参考にしようと昼食・夕食は毎回デジカメで撮影し、材料・味付けをメモする。ついでに栄養士さんに頼んで低コレステロール食と食本の指導を受け、資料として病院食のレシピも貰った。とても病人とは思えない明るい患者生活も 15 泊 16 日で終わり、退院後の毎月の検査は 3 回続けて異常も後遺症も無し。人生初めての入院はそんなに悪いものではなかったが、再入院だけは絶対しないように健康第一を心掛けている。

新潟脳外科病院第 1 病棟のスタッフのみなさん大変お世話になりました。みなさんとの一期一会は忘れません。